

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 山本 勇 会員数 約1,000人)

T E L 042-644-6996

1 前文

大問数は6問で昨年と変わらず，設問数は32問で試作問題及び昨年度の本試験，追・再試験から1問減少した。大問はすべて会話文を基にして設問を導く形式であった。基本的な思想や用語，概念に対する正確な理解が求められると同時に，落ち着いた文章を読み，資料（グラフや表）を読み取る力が必要である。原典資料を含めた文章理解力が問われる設問もあり，知識に偏らない幅広い力を求める出題の意図がうかがえた。

以下，具体的に各問いについて意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

【第1問】，【第2問】については，『公共，政治・経済』の評価と共通のものとする。

【第3問】

〔問1〕

「善悪と人間の間をめぐる思想」をテーマに，中国思想と西洋近現代思想の基本的人物と思想内容の理解を問う設問。基礎的な知識があれば，解答に迷わない。誤りの選択肢はそれぞれエラスムス，マキアヴェリ，王陽明とそれらとは対照的な思想とを組み合わせたものと考えられ，よく考えられた設問である。ルターと自由意志論争をしたエラスムスが人間に自由意志を認めているという知識が必要である。

〔問2〕

「法や規範，規律をめぐる思想について」をテーマに，イザヤ，スーフイズム，グロティウスの自然法，ルソーの全体意思に関する知識を問う設問。自然法やグロティウスについての理解，ルソーの全体意思への理解があれば解答を導ける。イザヤやスーフイズムについて，資料集にも記載がない社があるため，出題するにはいささか細かい知識であったとも考える。

〔問3〕

プラトン『クリトン』の本文資料と解説を読み取り，空欄を補充する設問。アは資料及び知識で解答を導ける。イに関して，脱獄を「自分の魂を劣悪にする」とまで言及している文献は見当たらない。『クリトン』の中で，ソクラテスは不正な判決にもかかわらず，なぜ脱獄が不正となるのかの理由について，ポリスの法秩序を害することをクリトンに説明している。原典を読んだがために，迷ったり，誤ったりする可能性が高い。以上の前提条件及び，問いや空欄や選択肢の構造上，「ポリスの秩序を害する」も排しきれないようにも思える。

〔問4〕

会話文の場面が変わった後，「西洋思想における感情と道徳の関係について」をテーマに，近代ヨーロッパ思想に関する知識を問う設問。西洋近代思想家の考え方を用語の丸暗記だけではなく，正しく理解し，知識を積み重ねてきた受験者の努力が報われる問題である。イの「理性によって導かれるわけではない」を「経験論的な考え」と気づけるかなど，直接的な用語を使

わずに選択肢の文章を構成しているという意味で良問である。授業者にとっても、ヒュームの思想を説明する際に、参考になる選択肢である。

〔問5〕

スティーヴンソンの文章、「信念の不一致」と「態度の不一致」についての読解問題。スティーヴンソンについては知らない前提で、資料文を正しく理解できているか問われている。難易度は高い資料文であるが、日頃から資料を読み取る練習をしていれば正しく答えに行き着くという意味で良問である。受験者が現代の哲学・思想を学習する機会が増えるのは良いことであり、今後も継続した出題を求めたい。

〔問6〕

「自己の内面をめぐる思想」をテーマに西洋思想家について、基本的な知識を問う設問。ウの「たとえ義務に基づくものではなくても、義務にかなっていれば道徳的に善い」が文章として違和感がある。それぞれ解答者の中で解釈しながら読む必要がある。基本知識を問うのであれば、判断しやすい文章にしてもよいのではないか。

〔問7〕

『ダンマパダ』と『維摩経』の2種類から内容を読み解く設問。原典をどこまで読み解けるかが問われている。難易度はやや高めである。リード文のこのタイミングで悪をどうとらえるか、考えさせる問題を設けていることは意義深い。その点では良問と言える。一方で②の選択肢が誤答として完全に除外できるか、疑問が残る。問題文には「最も適当なもの」という指示があるので、特段の問題がないが、明確に判断できる選択肢が好ましいのではないか。

〔問8〕

授業資料を基に、アーレントとヤスパースの思想の知識について問う設問。思想内容を理解していないと解答できないわけではなく、人物と一致する用語を選べば正答にたどり着く。リード文との対照においては、下線部⑩「他の人々とのつながり」をより具体的に考えさせる狙いがある問題として良問と評価できる。

〔問9〕

授業後のレポートと会話文を踏まえ、ルールと道徳に関する空欄補充を行う設問。難易度は高くない。資料読解力、理解力が問われるという意味で、とても共通テスト的な問題と言える。出題の工夫を凝らそうとしていることは伝わり、この大問のまとめとしての役割も果たしていると言える。提示された文章を活用している点で評価できる。一方で、3ページにわたる会話文（場面1～3）を都度めぐり、解答を導かせるのは『公共、倫理』を受験する上で必要な力であるのか、受験者への負担も大きいので、検討が必要である。

【第4問】

〔問1〕

会話文中の空欄を埋める形で、森鷗外思想について問う設問。森鷗外思想について標準的な理解があれば、問題なく解答を導ける。

〔問2〕

地獄草紙と来迎図のともに図版を基に、法然と源信の違いやそれぞれの関連用語を正しく理解しているのか問う設問。選択肢が、末法思想（平安時代）の源信一観念仏と、浄土宗（鎌倉時代）の法然一専修念仏の実質2択のため、易しい問題と思われる。

〔問3〕

二人の生徒の会話文の空欄を埋める中で、和辻哲郎の風土比較論に関する知識を問う問題。

選択肢はすべて『風土』の文言である。難易度は低いと思われるが、近代日本の思想・哲学を出題として取り上げたいという意図、和辻が代表的であることも理解でき、今後も同様の出題を求めたい。ヨーロッパと日本の比較以外の観点で出題できるとなると、出題の幅が広がるのではないか。

〔問4〕

先生と生徒が赤穂事件を題材に「人の守るべき法と義」についての会話文から、読解を行う設問。赤穂浪士の話と荻生徂徠の思想について正しく理解していれば答えられる。荻生徂徠と赤穂浪士の組合せ、日本ならではの法と義の考え方を問う姿勢、誤解を恐れることなく切腹を共通テストの題材とした出題者の決断を受け止めたい。

〔問5〕

坂口安吾の『墮落論』の資料を読み、適切な選択肢を選ぶ設問。坂口安吾について、選択肢の文章の内容を理解している受験者は少ないだろうが、資料文を丁寧に読めば、誤答の理由が分かるため、容易に解答を導くことができる。坂口安吾の『墮落論』を引用し、出題したことは評価できる。このような引用を授業でも用いて、多くの生徒に触れてもらう機会としたい。

【第5問】

〔問1〕

会話文中の下線部から、基本的感情として適当でないものを選択する設問。心理学知識を問う設問となった。エクマンの6つの基本感情まで理解している受験者は多くない。また、心理学者エクマンの名が提示されなければ、本来解答を判別できないはずである。教科書の記載には「基本的感情等」と、断定していないものがほとんどであり、問題文は「エクマンが実験に用いた基本的感情として、適切でないものはどれか」という文言が必要であると考えられる。また、自己意識的感情との対比や他の思想とのかかわりを交えて問うと、より意義深い設問になるのではないか。

〔問2〕

シャクターとシンガーの「二要因理論」を扱った実験資料を読み取る力を求める設問。「心拍・呼吸」という数値情報を、滑稽な振る舞いに対する解釈という認知情報がどのようにマッチするか、実験から分類・判別する。

〔問3〕

AIの発展と異分野融合に関する「倫理的・法的・社会的課題 (ELSI)」の現状に関する知識、一般常識を問う設問。珍しい5択の選択問題である。あるべき倫理・道徳から、または基本的概念から正誤を判断できる。公民科らしい設問とは言える。教科書の内容だけでなく公民科である以上、実社会の出来事にもアンテナを張っておくべきという出題者からのメッセージと言えるのではないだろうか。

〔問4〕

BMIの使用とQOLの関係について、会話文も踏まえて判断することが求められる設問。「会話文を踏まえ」とあるが、会話文に示されている内容だけではなく、QOLに関する常識的な判断力も必要となる問題である。BMIという概念に慣れていなくても、既知の概念で対処できるかどうかを試す問いと言え、対処できるはずである。日頃の授業の教材について問い直す機会になる設問である。

〔問5〕

脳の情報の収集・活用に関して、倫理的な見方・考え方が活用できるか問う、思考力・判断

力を求める設問。新聞等でも話題に上がるなど、今後の関心が高まる分野である。問いとしては簡単だが、これから訪れる現実かもしれないと受験者に考えさせる点で、意義がある良問。日頃の授業でも、こうした倫理的な見方・考え方を育む授業を行っていきたい。また、教科「情報」との関連、重複を確認して、「公共」「倫理」だからこそどこまで踏み込めるか、踏みこむべきか、我々教員が早急に問う必要がある。

【第6問】

〔問1〕

下線部②を発展させ、権原理論から最小国家論を説いたノージックの思想についての知識を問う設問。ノージックはやや発展的な知識であるが、選択肢そのものは難しくない。

〔問2〕

自然の搾取を批判する思想についてシンガー、ボールディング、ウェーバーの知識を踏まえて、思考を働かせながら解答を導くことが求められる設問。ピーター・シンガーは知らない受験者も多いだろうが、それ以外の選択肢で解答できる。これまでの問いに答えているとこの問題で戸惑うが、このような問いも間違い探しにとどまらないという意味でよい問題と評価できる。

〔問3〕

気候・気象制御技術の可能性と懸念を説明した文の正誤判定を行う設問。「共有地の悲劇」「Think Globally, Act Locally」「世代間倫理」「生物多様性」といった環境倫理で使われる概念理解が求められる。説明文が長く、受験者にとっては解答を導くまでに時間を要するだろう。

〔問4〕

カーソン『沈黙の春』を用いた資料読解から、読解力及び知識を問う設問。資料は、2章「負担は耐えねばならぬ」からの引用である。教科書や資料集などでは、前章「明日のための寓話」から引用されることが多いが、生物学者としてのカーソンの思想が感じられる引用と言える。

〔問5〕

水俣病とレオポルドの「土地倫理」から、読解力と「土地倫理」に関する知識を問う設問。レオポルドの「土地倫理」に関する知識がなければ、受験者は正答を断定するのは難しいだろう。一方、水俣病公式確認から70年が経つ今年に、この問いを出す意義は大きい。東日本大震災からも15年が経つ。現地の漁民の思いも読んで考えさせられるものであり、出題の意図が感じられる良問。このようなリード文や設問から、今後もメッセージを発信してもらいたい。

3 総評・まとめ

倫理分野の原典資料は5つで、昨年から変化なし。設問形式としては、短文4択、資料読解、人名組み合わせ、空欄の語句・記述組合せ等、これまでに出版されてきたものが多くあった。

倫理分野の問題が平易で解きやすいものであったため、難易度はやや易化し、平均点も高く出たものと思われる。基礎的な知識を問う内容が多くを占めたが、説明不足・条件提示不足であろう設問、曖昧な表現があり、正誤判定が難しい設問がみられた。

4 今後の共通テストへの要望

要望は以下の2点である。公共の共通問題の部分で「政治・経済分野」の出題が、「倫理分野」の

出題よりも多く、『公共，倫理』受験者の負担が『公共・政経』受験者の負担に比べて大きいと感じられた。確かに、「公共」の分野は「政治・経済」の学習が多くを占めることから、このようなバランスになっていることは理解できるが、『公共，倫理』の受験者にとっては、「政治・経済分野」の設問に対して多くの知識，対策が必要である。設問数のバランスをとるか、「公民的な見方・考え方」を用いて，解答を導かせる設問，あるいは複数の資料から現代社会の諸課題について考察させる設問等，政治・経済，倫理の双方の受験者にとって不利にならないような出題が望ましい。

2点目に「倫理分野」では単なる資料の読み取りではなく，より倫理的な知識を踏まえた考察力を求める出題に期待したい。ここまで授業等で努力を積み重ねてきた受験者が，点数を重ねられる出題であってほしい。同時に文章全体の量を抑えながら，公民的な思考力・判断力が発揮されるかを問う出題を求めたい。